

# 令和6年 能登半島地震

## 近畿・中部地区国立大学病院の対応報告

### 発災時の対応～その後の対応と課題

金沢大学

富山大学

福井大学

岐阜大学

名古屋大学

# 令和6年 能登半島地震 被災された方々へ

謹んでお悔やみ申し上げますとともに、  
被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

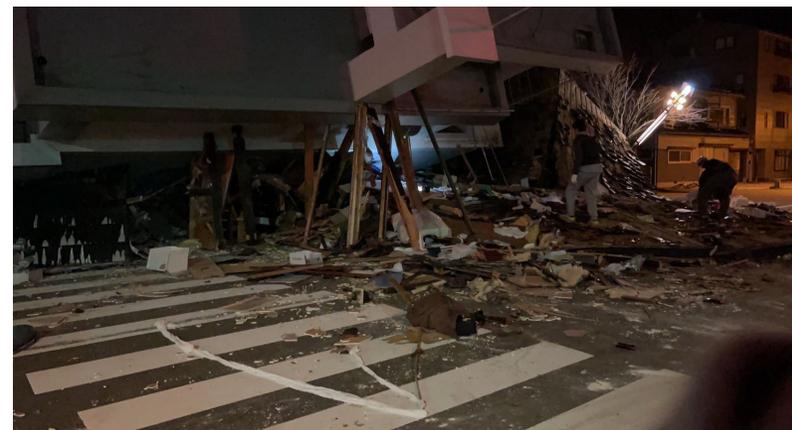
令和6年 能登半島地震にて近畿・中部地区国立大学病院の対応を、  
国立大学全国看護部長会議にて報告させていただきます。  
これは、被災状況の実際、明らかになった課題解決への取り組み、  
今後発生する災害対応の準備などについて、共有することで、  
国民の皆様へ貢献することを目指しております。



# 金沢大学

令和6年3月22日現在  
看護部長 辻 千芽

# 能登半島地震発生 令和6年1月1日16時6分 最大震度7



# 1月2日 金大DMAT 現地病院入り 空路にて



# 水がない！



# 発災時の金大病院 時間外看護師長の行動より

1. 院内 830床／入院患者数 309名、看護職員113名勤務中

- 人的被害なし、建物一部壁の破損のみ・・・耐震・免震構造の効果
- 透析室からの患者搬送・・・エレベータ使用可能
- 外泊患者7名の無事確認・・・能登避難所に待機1名
- 面会家族が能登に戻れず・・・家族控室使用
- 夜勤者の参集状況の確認・・・時間は遅れるが83名全員出勤可能  
➡ 携帯電話が鳴りっぱなしで対応困難

2. 院外

- 玄関前に周辺住民避難者あり、帰宅困難者なし・・・プロムナード未開放

# 看護師宿舎の状況 入寮者の行動より

病院敷地内に立地 無償貸与(水道光熱費は自己負担) 86部屋

## 1. 被害状況

- 人的、室内の被害なし
- 強い揺れによるガス給湯器 自動停止(正常作動)

## 2. 入寮者の行動 67名中15名程在室

- 机の下に入る、ヘルメットをかぶる、部屋のドアを開ける、ガスの元栓を閉めるなど、自分の身を守る行動をとった
- 自身の安否を看護師長と病棟に連絡した
- 寮にいるスタッフに声をかけて病院に向かった
- 自部署には、いつでも応援にいけることを伝えた

## 3. 体験して思ったこと

- いつのタイミングで病院のどこへ行けばよいのか、わからなかった

# 看護職員の安否確認と被災対応

- 1月2日までに実働看護職員873名全員の無事を確認
  - 産休・育児休暇、休業中の職員129名の報告が少なく時間を要した
- 避難所滞在者 1/1 66名 → 1/3 35名 → 1/4 3名
  - 自宅または帰省中の被災 避難所で看護活動をしていた者もいる
  - 数日～1週間、最長2週間の避難所生活
  - 家族を自宅に受け入れた職員もあり、生活の変化
- 自宅家屋の損壊や断水被害
  - 能登、金沢近郊でも 全壊1名、水道被害17名、転居2名
  - ➡ 仮眠室・浴室の利用、寮の貸し出し
  - 家族や親戚を亡くした職員へのカウンセリング

# 病院災害対策本部会議 毎朝8時開催

出席者：病院長、病院理事、病院部長、副病院長、救急部長、  
病院長補佐（医療情報担当、薬剤担当、感染制御担当）等

被災情報の集約	院内外・被災地の患者・職員の状況、EMIS
対応方針の決定	被災地・本部への支援、後方支援を通じて現状把握
DMAT指揮所運用	応援要請・DMAT受入、スペース・搬送経路の確保
医療体制維持整備	被災者受入・通常診療・3次救急応需の応援体制 転院調整、感染対策
調達確保	被災者の生活物品
心理支援体制	被災患者、職員（被災者・支援者） 震災対応メンタルケアチーム（精神科医師・看護師、臨床心理士）

➡1月2日～1月24日 **多職種間の情報共有**により刻々と**変化するニーズ**への対応

# 石川県保健医療福祉調整本部会議

「石川中央・南加賀医療圏 病院会議」 1月10日・15日・23日

参加者：病院長、病院部長、看護部長

方法：Web会議 「活動方針」情報共有と意見交換

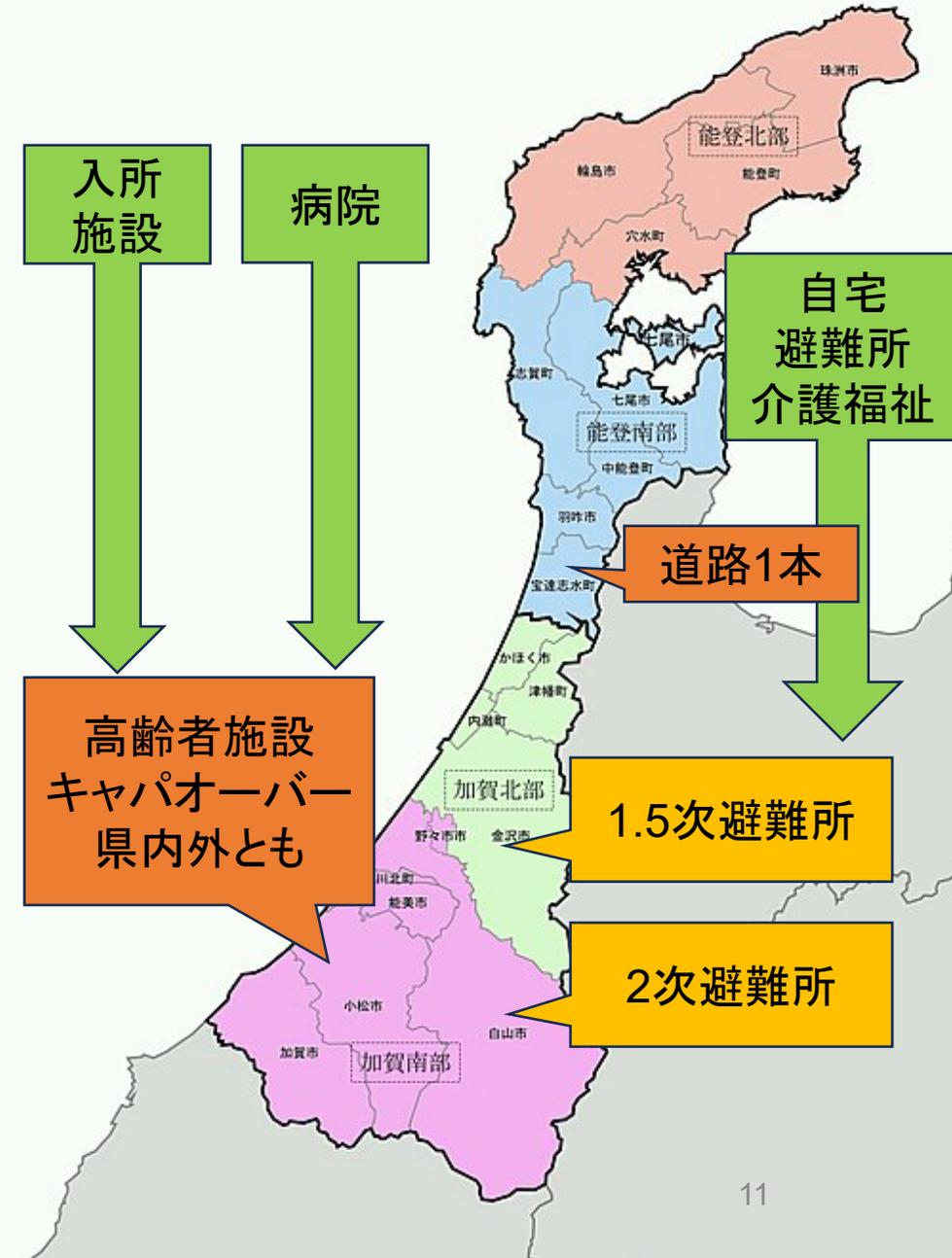
本災害の特徴 孤立により

- 要医療者(外傷、透析等)の医療アクセス困難
- 病院・社会福祉施設・避難所の環境(水・食料・暖房)改善遅延

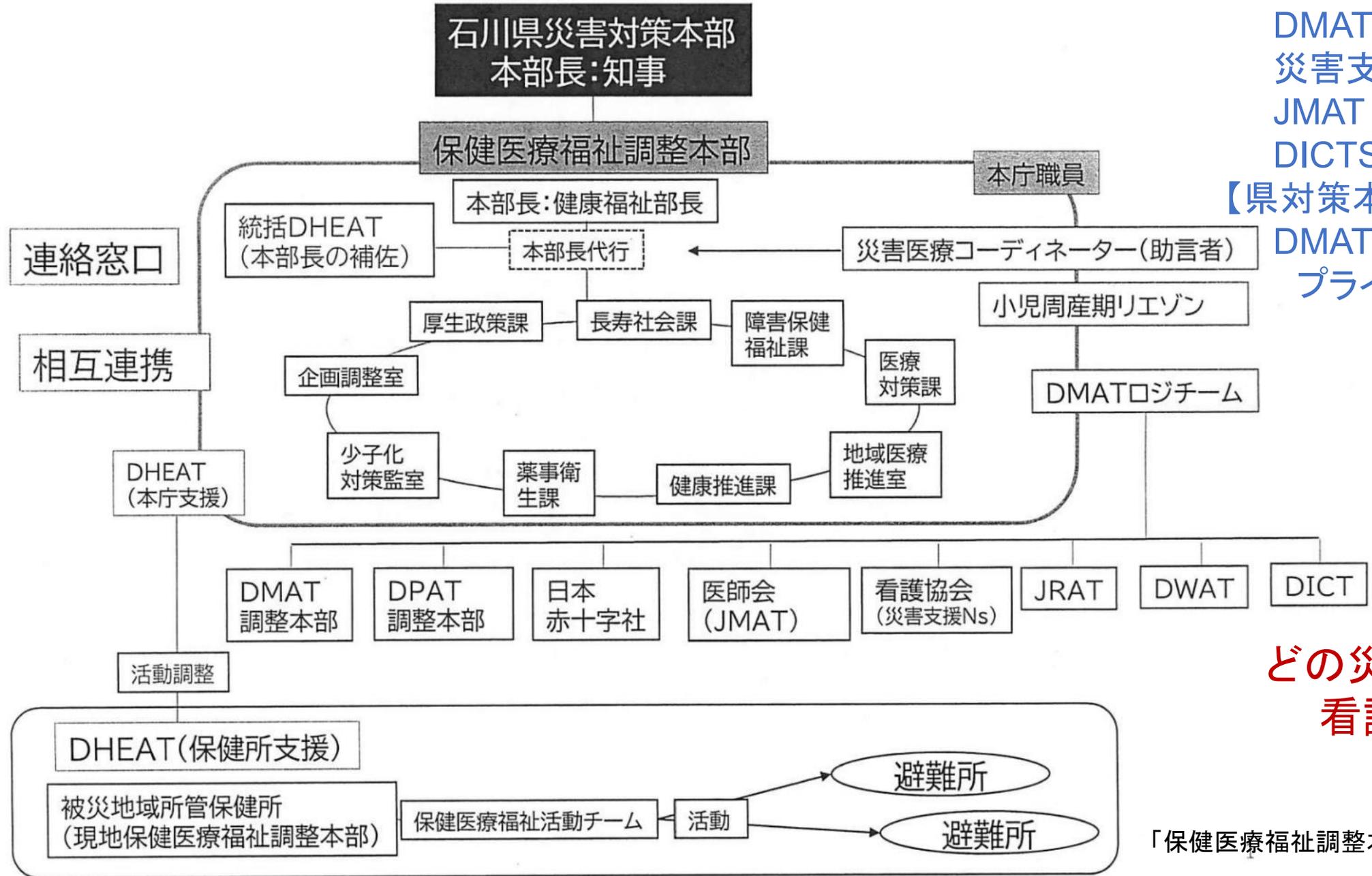
方針 病院・社会福祉施設・避難所の

- 患者・入所者・住民の医療提供継続・医療アクセス確保 - 要緊急医療者の初期診療、搬送
- 水、食料、暖房環境の確保 - 被災地内最低限環境整備と生活に耐えられない方の広域避難搬送
- 継続可能な保健医療福祉体制の確立 - 被害状況、需給バランスを踏まえた施設支援(人的・搬出)

➡ 防ぎえる災害による死亡、悲劇の低減



# 石川県保健医療福祉調整本部 組織図



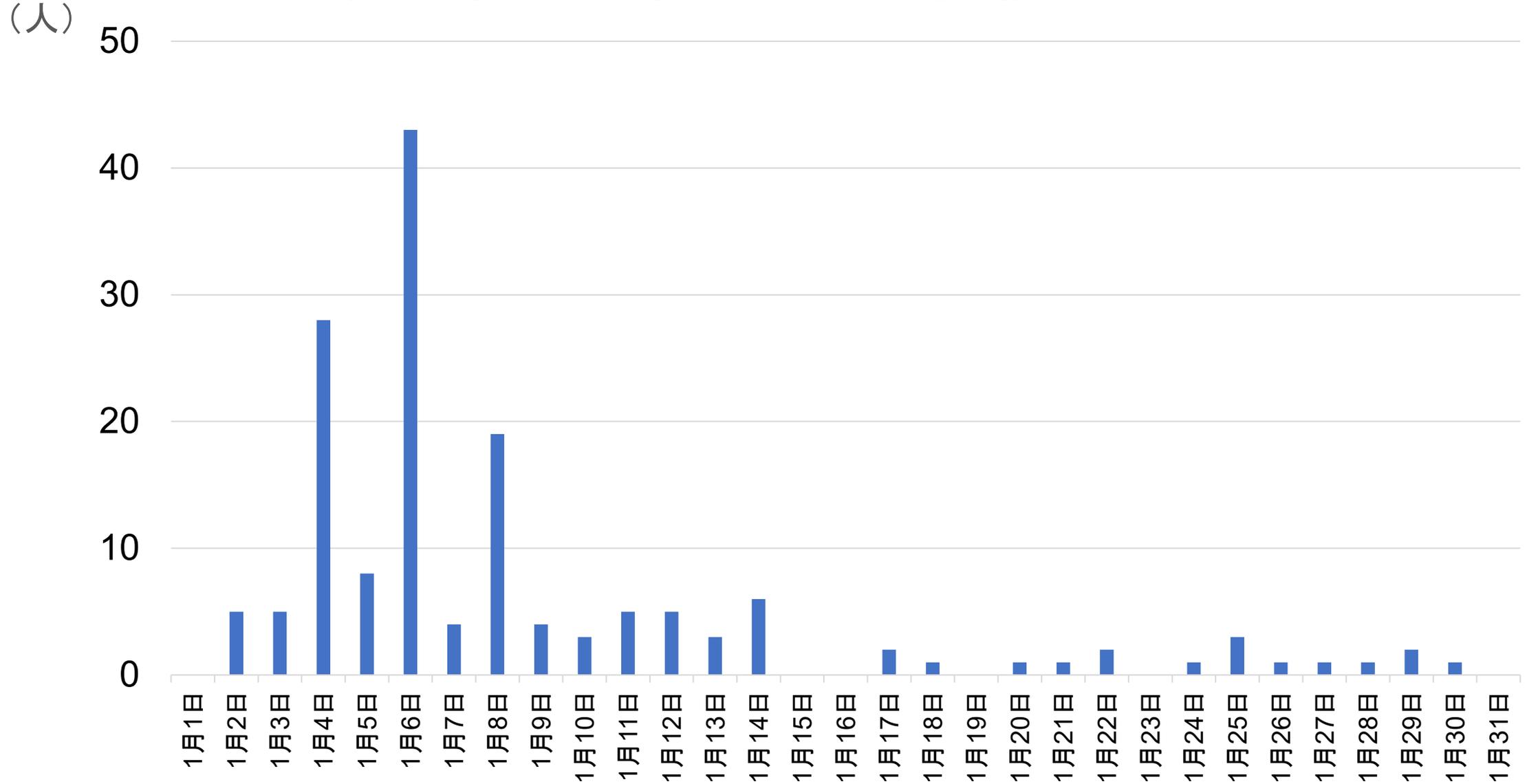
- 【現地派遣】
- DMAT 3名
  - 災害支援ナース 1名
  - JMAT 1名
  - DICTS 2名

- 【県対策本部派遣】
- DMATロジ
  - プライマリケア調整 2名

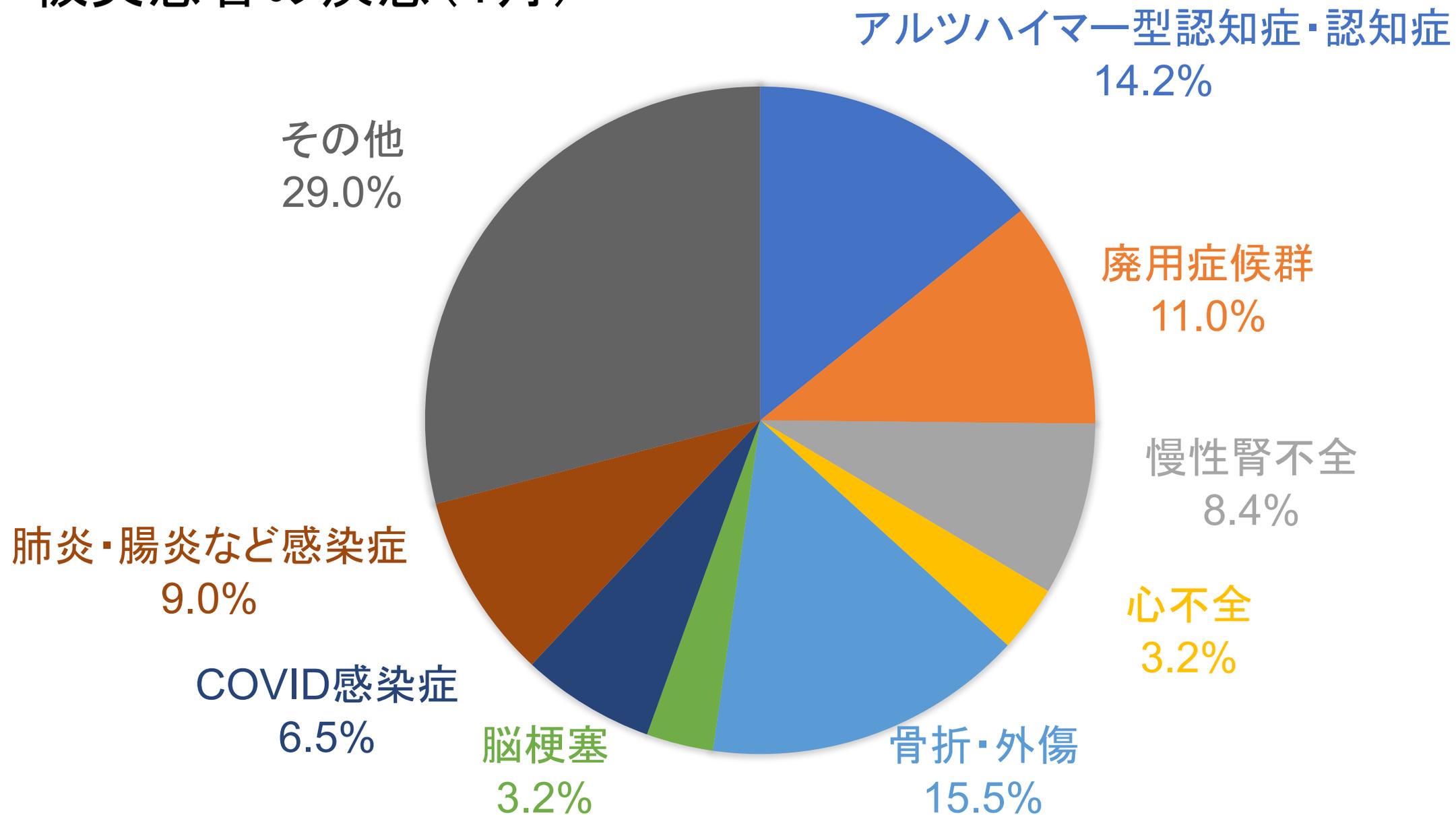
どの災害チームにも  
看護師が同行

「保健医療福祉調整本部会議資料より出典」

# 当院の被災患者受入数の推移(1月) n=155



# 被災患者の疾患(1月)



あたたかくお迎えしたい...



# あたたかくお迎えしたい...



# そばにいる安心が生きる力になる



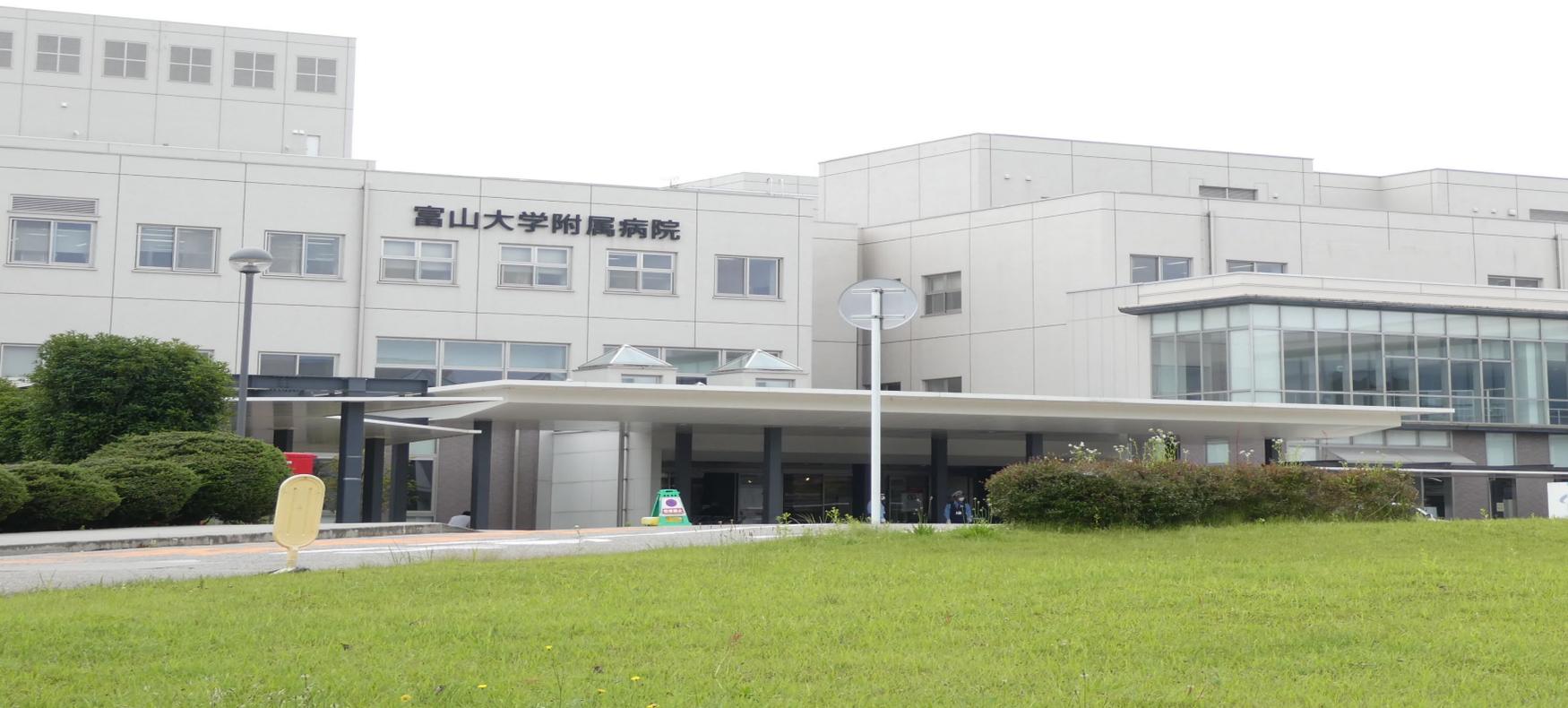
- 会話できない方だと思っていたが、ユマニチュードで関わると声が出せた。にっこり笑っていただき私も励まされた。
- 小児患者が辛い気持ちを出せないでいることに気づき、なるべく傍にいと元気な声を出せるようになった。
- 意思疎通できず難しいと感じていたが、表情が変わったのを見た時に嬉しくなった。転院の際に強く手を握ってくれた。
- 産科病棟で、ストマのある高齢患者の看護ができとても自信になった。ユマニチュードで穏やかに過ごしていただけた。
- ICUで、家族を亡くした方や避難所に残してきた家族に申し訳ないと話す患者に静かに傍で寄り添うと、安心して入眠された。
- 透析室で手が冷たく表情もかたい患者に温かいタオルでマッサージをした。だんだんと話をしてくださるようになった。
- おむつ内で尿失禁をしていた患者の尊厳に配慮し、支援を続けたら、トイレで排泄できるようになった。

# 発災から3か月の課題

1. 広域支援撤退により県内で復興・復旧を支える体制づくり  
金沢大学能登里山里海未来創造センター 医療支援WG立ち上げ
  - 震災発生直後から現在までの医療支援全般に関わる本学の取り組みを振り返り、課題と今後の震災に向けた対策を立案
  - 被災者の健康維持増進のために必要な医療支援を中長期的な視点に立って行い、本学の特色を生かした独自性の高い支援を含めて多層的支援を提供
2. 燃え尽き症候群やPTSDなどによる不調への対応
3. 能登地域を含めた看護職員確保
4. 災害関連疾患や高齢化に対応した看護の質向上

令和6年能登半島地震

# 震災対応と課題について



富山大学附属病院  
看護部長 丸池 小百合

## 令和6年能登半島地震

### 初動対応について



#### 病院概要

病床数：612床  
病床稼働率：79.86%  
平均在院日数：10.43日

基幹災害拠点病院  
DMAT（看護師） 12名  
災害支援ナース 29名

1月1日 16:10 令和6年能登半島地震発災 震度7  
病院所在地（富山県富山市） 震度5強  
発災時の入院患者数：277人（病床利用率45%）  
人的被害：患者・職員ともになし  
物的被害：軽微（診療に影響なし）  
ライフライン：異常なし  
院内EV停止：患者搬送、配膳・下膳は人力で対応 翌日復旧  
患者搬送要員確保（看護師2名）

#### 初動対応

- (1) 暫定対策本部設置
- (2) 職員・患者の安否確認 施設被害状況の確認
- (3) 避難住民への対応
  - 外来患者駐車場開放 救急搬送経路確保
  - 院内に臨時避難所設置（3か所） 避難住民の受け入れ（およそ200人）
    - ・感染予防対策（マスク・手指消毒剤の設置）
    - ・横になって休める環境（簡易ベット、長椅子、フロアマット）
    - ・備蓄品の配布

問題：外来駐車場を開放する手順がわからない  
避難所の設置場所と準備物品、物品の保管場所がわからない  
隔離が必要な避難住民への対応がわからない

- (4) DMAT・災害対策本部を設置
  - 対策本部会議開催（1日2回開催）
  - 病院長から職員へのメッセージメール配信（がんばろうメール）

#### 課題：災害対応マニュアルの整備（追記）

- ・ 院内駐車場の開放基準や連絡先について
- ・ 避難所設置の必要物品と保管場所について
- ・ 隔離が必要な避難住民の受け入れについて

令和6年能登半島地震

## 看護師派遣と患者受け入れの実際



## 震災からの学び

1. 「備える」ことの大切さ（マニュアル・訓練など）
2. 想定外の事態は起こった時は、慌てず、目で見て、頭で考え、力を合わせることが重要

## 1. 被災地等への看護師派遣

(1) DMAT派遣	4名
(2) SCU派遣（広域搬送拠点臨時医療施設）	4名
(3) 災害支援ナース派遣	6名
(4) JMAT派遣	3名
(5) 広域避難所支援への看護師派遣	2名
(6) DICT派遣（感染管理認定看護師）	1名

問題：1人の看護師が複数回の派遣に対応  
精神的・身体的負担が大きい

## 課題：災害に係る看護師の育成

（DMAT、災害支援ナース、災害看護専門看護師など）  
派遣後のメンタルヘルスケア

## 2. 被災地からの患者受け入れについて

被災地からの受け入れ患者	54名
（内数）能登地方からの受け入れ患者	32名
（内数）重症患者	7名

問題：県内の後方支援病院への転院が停滞  
急患や予定入院の受け入れ困難

## 課題：有事における病床管理



# 福井大学

看護部長 諏訪万恵

# 対応と課題（福井大学医学部附属病院）

## 看護部

- 院内）情報収集（被害確認）と人員確保
- 院外）職員被災の有無の確認
- 診療継続の可否の確認
- 発災後から現在までの情報整理
- 広域搬送に備えて受入病棟・受入応援看護師の決定
- 看護部全体での情報共有
- 人的支援の協力依頼（協力者の募集とリスト作成）⇒福井県看護協会と連携
- 被災地への人的支援の調整
- 発災時の体験共有を目的とした看護管理者研修会の企画

## 課題

- 防災・災害対策についての教育  
(免震構造の病院で勤務しているスタッフは、発災当日災害と認知しなかった)
- BCPの見直し
- 国立大学間の連携  
(国・県・各職能団体等の支援要請に対してそれぞれの病院で対応している。お互いの被害状況等も不明)

※下線部分は発災当日  
業務担当副看護部長と当直看護師長が実施



# 岐阜大学

看護部長 深尾 亜由美

# 対応と課題（岐阜大学医学部附属病院）

## 看護師の派遣状況（合計16名）

【DMAT（災害派遣医療チーム）：9名】

- ① 1月2日（火）～5日（金） 看護師2名
- ② 1月5日（金）～7日（日） 看護師2名
- ③ 1月8日（月）～11日（木） 看護師1名
- ④ 1月17日（水）～20日（土） 看護師2名
- ⑤ 2月1日（木）～4日（日） 看護師2名

【災害支援ナース：6名】

- ① 1月15日（月）～18日（木） 看護師1名
- ② 1月30日（火）～2日（金） 看護師3名
- ③ 2月20日（火）～23日（金） 看護師1名
- ④ 2月26日（月）～29日（木） 看護師1名

【JMAT（日本医師会災害医療チーム）：1名】

- ① 2月17日（土）～19日（月） 看護師1名

要望があったものは全て派遣した

## ＜DMAT出動までの経過＞

- 1月1日 16時10分 能登半島地震発生
- 16時17分 岐阜県よりDMAT隊員へ待機のメール発信
- (19時30分 DMAT隊員である看護師長より看護部長に報告)
- 1月2日 9時45分 厚生労働省より中部ブロックDMAT出動要請
- 10時30分 岐阜大学DMAT出動決定
- (10時35分 DMAT隊員である看護師長より看護部長に報告)
- 12時45分 岐阜大学出発（市立輪島病院へ）

- 1月2日に出発したDMAT隊は本部の立ち上げと統括の役割を担った。
- 余震への恐怖、寒さ、睡眠時間の確保困難、トイレの衛生保持困難、患者が亡くなっていくのを黙って見守るしか出来ないこと、現地のスタッフを置いて帰ってくる申し訳なさ等が辛かったと報告があった。



# 対応と課題（岐阜大学医学部附属病院）

## <災害派遣ナースの調整>

- 1月5日に岐阜県看護協会より1月7日（第1班）より派遣可能な人数の調査あり。看護協会の調整の結果、当院は1月15日（第4班）以降の派遣開始となった。直前の決定が多く、調整のやり取りが煩雑であった。

## <看護部長としての反省点>

- 看護部長となり災害派遣の経験は初めてであった。DMATがどのような活動を行うのか等想像が乏しく、1月2日に出動するDMAT隊員への激励やお見送りをするという配慮が出来なかった。
- 災害支援ナースの派遣の際、保障等の確認はしていなかった。後日、傷害保険は日本看護協会が加入の手続きをし、賠償責任保険は派遣されるナースが個人で入る（任意）よう説明されていたことを知った。

## <課題>

- 災害訓練や派遣調整等の訓練の見直し
- 管理者が災害支援の実際を知る





# 名古屋大学

看護部長 藤井 晃子

# 対応と課題（名古屋大学医学部附属病院）

## <対応>

### 【DMAT出動期間】

- ・ 1月4日（木）～1月8日（月）・ 1月31日（水）～2月3日（土）

### ★看護部長が実施したこと

- ・ 看護管理室にて共有
- ・ DMAT看護師が所属している部署の師長へ、派遣調整するよう指示。
- ・ DMAT活動帰院後の看護職員の身体的、精神的なフォロー実施を副看護部長へ指示。  
リエゾン看護師・産業医との面談を実施。
- ・ 師長会にて共有。

### 【金沢大学 支援会議開催】

<開催日> 1月9日（火）Webにて開催

<参加者> 金沢大学病院長代行、東北大学病院長、  
国立大学病院長会議事務局、当院病院長、  
（陪席）事務部長、看護部長

### <会議内容>

被災状況の共有、必要物資の確認、  
支援要請の有無の確認

### ★看護部長が実施したこと

会議前日までに、金沢大学病院への看護師派遣準備を副看護部長へ指示。➡会議の結果今回派遣なし

# 対応と課題（名古屋大学医学部附属病院）

## <対応>

### 【SCUへの派遣】

「Staging Care Unit」の略称で、航空搬送拠点臨時医療施設のこと。  
愛知県より、医師・看護師等の派遣要請あり。

### ★看護部長が実施したこと

- ・看護管理室にて共有。
- ・DMAT看護師が所属している部署の師長へ、派遣調整するよう指示。
- ・師長会にて共有。

<出勤期間> 2024年1月11日（木）

<活動場所> 県営名古屋空港

<今回のミッション>

自衛隊のヘリコプターを利用し、午前・午後に分けて高齢者を15名ずつ搬送する

<活動内容>

- ・搬送車両の到着確認
- ・搬送車両スタッフへ搬送手順のオリエンテーション実施
- ・担架から搬送車両のストレッチャーへ移乗介助
- ・バイタルサイン測定など



# 対応と課題（名古屋大学医学部附属病院）

## <対応>

### 【愛知県庁DMAT調整本部への派遣】

愛知県より派遣要請あり。

### ★看護部長が実施したこと

- ・看護管理室にて共有
- ・DMAT看護師が所属している部署の師長へ、派遣調整するよう指示。
- ・師長会にて共有。



<出勤期間> 2024年1月15日（木）～2024年1月30日（火）

<活動場所> 愛知県庁自治センター

<活動内容>

- ①愛知県DMATの石川県への派遣調整
- ②石川県内の要介護の被災者を愛知県へ搬送する為に、受け入れ先病院の選定や調整、患者情報のリスト化・追跡業務（トラッキング）
- ③県営名古屋空港に設置されたSCU（航空搬送拠点臨時医療施設）で活動を行うDMATの調整（SCU：他県から航空搬送される患者を医療機関等へ搬送までの臨時救護所）

# 対応と課題（名古屋大学医学部附属病院）

## <問題と課題>

1. 災害時等における国立大学附属病院相互支援フロー図の周知。  
➡今回の全国会議において周知。
2. DMAT出動について
  - ①出動決定までのフローが不十分（DMAT担当医師が病院長、看護部長等へ連絡することで、調整時間を要した）。  
➡1月中にフローを作成。
  - ②DMAT職員帰院後の身体・精神フォロー体制が構築が不十分。  
・帰院後の休暇 ・産業医面談実施➡現在検討中
  - ③日本&愛知県DMATの人数（医師、看護師、コメディカル、全て）が少ないために、持続したDMAT活動が困難。
  - ④DMAT看護師の所属が一部の部署所属に限局されているため、一部の部署への負担が大きい。  
➡看護師の応援体制により、その期間の実働者のカバーした。今後、DMAT看護師を育成予定。
3. 派遣契約未締結により、看護協会の災害ナースへの派遣ができなかった。

## まとめ

災害に備え、国立大学病院としての機能を果たすために

### (自施設)

- ・ 防災マニュアル（BCP）整備
- ・ 訓練、教育活動の強化
- ・ ヒトの派遣および派遣後支援のスキーム作り

### (国立大学看護部長会議)

- ・ 国立大学附属病院相互支援フロー図に沿った連携の実践